

諏訪地方の経済概況速報

平成24年 7月

(平成24年 6月末調査)

平成24年 7月20日

長野県岡谷市郷田2丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266 (23) 4567

FAX 0266 (23) 8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【5月】	諏訪公共職業安定所管内	0.71倍	+0.11ポイント	
手形交換高【6月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	5,327枚	△2,134枚	
	金 額	6,007百万円	△3,268百万円	
	うち不渡り	枚 数	1枚	△5枚
	発生状況	金 額	5千円	△9,581千円
電力使用量【6月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	40,263 MWh	+2.6%	
	高压電力計	89,499 MWh	△5.5%	
	合 計	129,762 MWh	△3.1%	
車庫証明取扱件数【6月】(諏訪地方合計)		1,083件	+16.8%	
新設住宅着工戸数【H24.4月～5月】(諏訪管内)		148戸	△7.0%	

□ 本文は、当金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

諏訪地方の企業は、引き続き自動車やスマートフォン関連を中心に持ち直し傾向だが、欧州債務問題や中国・米国経済の減速、為替相場、政局など先行き不安が多い。円高局面が続き、活況な企業もあるが、大手の生産拠点の移転・集約の影響やコストダウン要請による収益低下があり、総体的に大手ほどの改善感は少ない。国内受注専門と、海外展開企業の格差も広がっている。エネルギー面では、国内排出削減量認証制度や7月からの再生可能エネルギーの固定価格買取制度に向けた取り組みが見られる。

●製造業

企業間の価格競争やコストダウン要請による低単価など収益性の厳しさはあるものの、自動車部品関連の多くの下請企業の足元の受注は、ハイブリット車を中心に好調な受注状況が続いている。同時に補助金終了後の反動減の懸念もある。産業設備関連では中国の設備投資が停滞気味だが、全体的には堅調に推移している。電気機械はスマートフォン関連が好調に推移している。用途の広い圧力計や医療機器、空調・冷媒部品の受注も安定している。一方、省力機械は弱含みで、生産拠点の海外移転が進むカメラ、光学の受注も減少傾向となっている。復興支援関連では、地元企業が扱う住宅用サッシを東北へ送る動きもあった。

●商業

諏訪地方の6月の天候は9日に梅雨入りし、中旬には台風4号の通過もあった。諏訪地方の食文化の1つとなっているウナギが高値で、野菜や果実も高値傾向となっている。お中元の出足は鈍く、新規出店やリニューアルがあった地域では、価格競争が激しくなっている。家電はテレビの落ち込みが激しい。太陽光発電システム販売は増加傾向だが、低価格の中国

製の動きもある。

自動車販売は、諏訪地方の6月の車庫証明件数が1,083台と前月を45台上回り、前月より伸び率は鈍化したものの、前年同月比は156台の増加(+16.8%)となった。依然、エコカー補助金と新型車の人気などから、販売台数は回復している。駆け込み需要はまだない。

●観光業・サービス業

諏訪地方の高原の施設は高山植物の開花がやや遅れ、宿泊客数は施設によって区々だが、震災の影響があった昨年より回復している。リニューアル施設がある上、低価格化が進み、業者間競争が激化している。温泉地も含めた観光施設では団体客が減少する傾向がある。今年のツアールートは「平清盛」「東北」「東京スカイツリー」「新東名」が人気で、諏訪地方への誘客が懸念されている。諏訪大社の6月の参拝者数は約53千人で昨年とほぼ同数だった。焼肉店ではレバ刺し提供全面禁止を前に、月の後半に駆け込み需要があった。

ロンドン五輪に向けた夏の海外旅行者の動きは、諏訪地方では今のところ少ない。むしろ企業の海外移転に伴う出張や震災の反動、円高を1つのきっかけとした個人、家族の海外旅行が増えている。

●建設業

市町村の6月の発注工事は、建築工事16件、土木工事及び下水道工事45件、その他工事8件の合計69件452百万円で、前年同月比で件数は11件減少、契約金額は654百万円の減少となった。県関係の6月の公共工事(地元業者受注分)は15件238百万円で、平成24年4月~6月の累計契約は18件432百万円と、前年同期累計比で件数は4件増、契約金額は178百万円の増加となった。

諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数は64戸で、前年同月比では4戸の増加(+7.0%)となったが、依然として低水準が続いている。また、長野県内の4月の新設住宅着工戸数は827戸で、前年同月比3.1%増加と2ヶ月連続で増加した。

●雇用

諏訪地方の5月の有効求人倍率は0.71倍と前年同月を0.11ポイント上回った。全国と同倍率は0.81倍、長野県と同倍率は0.85倍となっている。製造業を中心に県や国を上回る状態が続いていたが、企業の海外進出などの影響が出ていると見られる。

新規求人数(全数)は1,271人で前年同月比1人減少($\Delta 0.1\%$)し、新規求職者数(全数)は1,223人で前年同月比34人の減少($\Delta 2.7\%$)だった。産業別の前年同月比の新規求人数は、建設業25.8%、医療・福祉業7.1%、飲食店・宿泊業5.0%、製造業3.4%それぞれ増加の一方、運輸業、卸・小売業、その他サービス業で減少した。5月の1件10人以上の人員整理は1件53人、事業主都合による雇用保険資格喪失は77人で前年同月比2人増加、前月より67人減少した。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板	スマートフォン、自動車、アンテナ関連は好調だが、総体的にはテレビ関係を中心に低調となっている。
プリンター	本体を海外生産する大手の国内受注は減少している。
コンタクター・リレー	工業用非常電源装置、J R 関連などは堅調に推移しているが、コンピューター関連の受注は減少している。

2. 輸送用機械

自動車	下請企業は、足元の受注は増加企業が多い。新車のほか、中高年に人気のキャンピングカー関連の製造も好調で、トラックは材木運搬車製造の受注に動きが見られる。
ピストンリング・シリンダーライナー	国内はハイブリット車関連の受注が安定しているが、他は低調で海外生産が主体になっている。
船外機	親会社に生産台数の下方修正計画はあるが、堅調に推移している。

3. 一般機械

工作機械・専用機	大型工作機械、専用機の受注は総体的に好調で、リーマンショック以前の水準近くに回復しつつある。
搬送用機械	総体的には堅調に推移するものの、大型物件が減少傾向にある。
金型	親会社により増減あるが、足元は低調な推移のところが多い。
ダイカスト	生産量は堅調。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの5月の生産台数は約928万台で前月比4.0%減少、前年同月比同率となった。5月の出荷台数は国内出荷約63万台、海外出荷約832万台の合計約895万台で、出荷台数全体では前月比6.0%減少、前年同月比は3.9%減少となっている。地域企業は受注増もあるが、全体的に不安定。ミラーレス一眼デジカメ部品の受注は安定している。
レンズ	円高で価格競争厳しく収益性が低下している。

5. 織 維

ニット

秋物量産への移行が遅れた。量産期間が短く、少量生産、納期短期化の傾向が続いている。

6. 食 品

寒天

今期は製造時期の好天で品質が良く、道の駅などでの購入顧客からの再注文が順調にある。天草の仕入れ値は前年並み。

味噌

需要は横這い。原料や資材の値上がりと、大型店などが行う値下げの圧力の板ばさみがある。

7. 製 材

地元建築業者の業況が回復せず、受注は低調。地区外からの納品や競合が多く、収益面は厳しい。

8. 建 設

公共工事

6月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所7件、施設課関係工事1件、林道治山工事関係0件、農地整備課4件、長野国道事務所等国関係3件、その他工事0件の合計15件、契約金額238百万円となった。また、平成24年4月～6月の累計契約は18件432百万円と前年同期累計比で件数は4件増、契約金額は178百万円の増加となった。

市町村の6月の発注工事は、建築工事16件125百万円、土木工事及び下水道工事45件285百万円、その他工事8件41百万円の合計69件452百万円で、前年同月比で件数は11件減少、契約金額は654百万円の減少となった。年々減少傾向となっている。

長野県は他県に比べ、大型工事が多いといわれ、大手ゼネコンの営業担当者が県内に入り、さらに競争が激化している。

民間工事

諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数は64戸で前年同月比では4戸の増加(+7.0%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は4戸減少の55戸、「貸家」は5戸増加の5戸、「給与」は同数の0戸、「分譲」は3戸増加の4戸となった。

また、長野県内の5月の新設住宅着工戸数は827戸で、前年同月比3.1%増加と2ヶ月連続で増加となった。なお、前年同月比の利用関係別では「持家」が577戸で4.7%増加、「貸家」が190戸で33.8%増加、「分譲」が58戸で46.8%減少となった。

9. 商業

衣料	婦人、紳士服とも横這い。
食料品	天候不順でレタス、キャベツなどが高値の一方、加工食品の売上が伸びている。
家電製品	テレビは低調で推移。太陽光発電システム販売は評価が高く前年比増だが、中国メーカーが低価格で脅威となっている。
自動車	エコカー減税終了後の反動減の懸念もあるが、現在は多くが堅調。
ホームセンター	昨年大幅に売上を伸ばした扇風機や簾などのエコ商品は、一通り行き渡ったようで、動きは落ち着いている。

10. 観光

上諏訪温泉	宿泊数は前年並みで、諏訪湖花火大会の予約は順調に推移している。団体予約が減り、直前予約の個人客が増えている。
蓼科・白樺湖・車山等	ニッコウキスゲやレンゲツツジなどの開花がやや遅れ、土日の天候不順の影響もあり、宿泊者数は施設や曜日により区々となっている。
下諏訪温泉	安産祈願、パワースポットプランが好評で地元小宴会も確保した。
諏訪大社	参拝客は昨年同期とほぼ同数で、修学旅行の団体が目立った。

★ トピックス 「諏訪のウナギ事情」

7月27日は土用の丑の日。諏訪地方では、栄養価の高いウナギを食べる習慣が定着し、消費量も多い。岡谷市ではまちづくりの1つとしても活用されている。販売業者にとってはかき入れ時だが、稚魚の減少などで高値となっている今年は、例年と様相が異なる。諏訪人になじみが深い伝統食材が、高嶺の花になりつつある。

これまでウナギを焼く際、形が崩れたら自分で食べていた販売業者が「今は自分の口に入らない」と嘆く。絶対形を崩さないように慎重に焼くためだ。それほど仕入れ値が高い。平成4年比で10倍になっているという。今年は店に固定客や観光客は訪れるが、一般消費は落ちている。客数が同じ時でも収益は少ない。「ウナギは食べたいが、一家で1万円を越えたら行けない」という消費者の声は多い。「諏訪地方以外の店で食べたウナギは、小さくてミイラみたいだったが、4,000円もした」と言う顧客もいる。

稚魚の減少は事実だが、流通システム上の問題を指摘する業者もいる。末端で購入できないほど相場が上がっては、流通しなくなる。従来の「ウナギは高くても売れるもの」という考え方も通用しない。ウナギ上りで天井までいった値段を下げる要素は見られる。水産庁は安定供給に向けた制度を打ち出し、期間限定で値下げする大型店もある。諏訪地方では現在、品質を落とさず価格とせめぎあいをする販売業者の努力が続いている。